

第9回つくば3Eフォーラム会議に参加して

筑波大学人間学群教育学類（3Ecafe プロジェクトチーム） 嶋村安祐美

1月23日に行われたつくば3Eフォーラム会議は、「交通」をテーマとしていた。自家用車の使用を控えることで二酸化炭素排出量の減少につながるのであるが、その代替としての公共交通機関である路線バスの使用や新たな公共交通網の開発について、つくば市の現富山市におけるLRT事例、十勝バスの事例などの講演、「交通まちづくり」の研究発表、関東鉄道を交えてのパネルディスカッションが行われた。その中から、印象に残った十勝バスの講演と「交通まちづくり」の研究発表について述べる。

まず、十勝バスの野村氏の講演では、乗客が増加するに至った取り組みの紹介が印象的であった。乗客増加を目的とした地域住民への戸別訪問から、バスの乗り方を知らない人が多いこと、バスは目的ではなく手段であるということに気が付いたという。確かに、乗り方のわからない交通機関は不安になるけれど、それを運行している側から見たら当たり前のことで説明が必要だとは思わない部分であるだろう。また、路線バスを使う側からしたら、目的地に着けるかが重要であり、それがどの会社であるかはあまり関係ない、というのは当たり前だけれど、気づきづらい視点だと感じた。

次に、谷口先生の「交通まちづくり」に関する研究発表の中で、海外の事例について触れられていた。海外では交通部門は赤字でも、人々がそれを利用して街へ行き、買い物等の経済活動が活性化され、「まち」が黒字になることが重要だと考えているという。日本では、交通部門であれ、赤字であることは良しとされず、なかなか踏み込んだ改革が行われづらいそうだ。つくばセンターと土浦駅を結ぶ路面電車の構想があったそうであるが、結局なくなってしまったらしい。予算を含め、諸々の事情があったのだろうが、改革とは難しいものであろう。

このフォーラム会議の前、昨年の夏から秋にかけて、つくば市の交通機関についてのアンケートが行われていた。普段の利用状況や路面電車を導入するとして利用するかどうか、といった内容だったと思う。このフォーラム会議では、つくば市の現状は分かったものの、今後どのように交通部門を考えるのか、明言されていなかったように感じる。先のアンケートはフォーラム会議の事前調査の一環も兼ねていたと記憶しているが、それについて言及はなく、少し残念であった。

私事であるが、私は3月に大学を卒業し、つくば市を去る。ずっと未来のことはわからないが、つくば市とは言ってしまうえば無関係な立場に戻るのである。しかし、一度は住んだところではあるから、今後、多くの市民にとって住みやすい環境都市となることを願う。